

きべりはむし

第19巻 第2号

目 次

兵庫県のクチキムシ(2)	高橋 寿郎	33
尼崎西南部の昆虫(その5)	新家 勝	37
ヒメウラナミジヤノメの遅い採集記録	森 和夫	41
ニシキキンカメムシ神戸市内に産す?	大倉 正文	42
宝塚市清荒神のチョウ(追録7)	加藤信一郎	43
ヒメタイコウチの死体を小野市黍田町にて拾う	高橋 寿郎	44
三木市美囊川畔のヒゲコガネ	高橋 寿郎	44
ヒラタアオコガネ広野ゴルフ場(三木市)に大発生	高橋 寿郎	45

県関係文献紹介・その他

兵庫昆虫同好会

1991年11月

兵庫県のクチキムシ (2)

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 8)

高 橋 寿 郎

8. *Borboresthes cruralis* (Marseul, 1876)

トビイロクチキムシ

Marseulにより Hiogo産 *Allecula* 属で記載された種である(1876)。前種に似るが体は黒褐～暗褐色。觸角、口枝、頭前方、肢は淡色で体下も赤味をおびる。

県下には広く分布していると思はれるがどちらかと云えば山地性のようで前種より個体数は少ない。

産地：Hiogo [Marseul, 1876]。神戸市烏原 (1ex., 6—VII—1984), 多井畑 (1ex., 19—VI—1990)。三木市口吉川町 (2exs., 14—VII—1986)。神崎郡大河内町川上 (1ex., 15—VII—1977)。宍粟郡音水 (1ex., 25—VI—1972, 1ex., 16—VII—1972, 2exs., 15—VII—1973), 坂の谷 (1ex., 22—VII—1979)。

9. *Hymenalia rufipennis* (Marseul, 1876)

アカバネツヤクチキムシ

Marseul により *Cistela* (*Gonodera*) 属で Nagasaki, Hiogo 産で記載された種である (1876)。

県下ではそれ程多いとは思はれないが広く分布しているようである。

高橋 匡氏が豊岡市妙楽寺から中根博士同定として *Hymenalia obscurior* Nakane を記録されたが中根博士に御尋ねした所本種の上翅の黒いものであるむね御連絡頂いた。

産地：Hiogo [Marseul, 1876]。神戸市摩耶山 (1ex., 27—V—1953, S. Hisamatsu det.)。加東郡社町三草 (1ex., 1—VI—1989)。龍野市神岡町 (5exs., 26—V—1988, 2exs., 4—VI—1988, 4 exs., 13—VI—1988, 1ex., 22—VI—1988)。相生市三渡山 (1ex., 8—VI—1974)。氷上郡 [山本, 1958]。豊岡市上佐野, 妙楽寺 [高橋, 1978]。養父郡氷の山 [中根, 1953]。美方郡扇ノ山 [辻, 1963]。

10. *Hymenalia unicolor* Nakane, 1963

クロツヤバネクチキムシ

本種は中根博士によって長野, 新潟県産でもって記載された種である (1963)。同博士による図説もある。

本種は同博士によると信州より北にいる種らしく, 本種の上翅の黒いものは *H. rufipennis* と♂交尾器の区別がつかないむね御教示頂いている。

兵庫県下には広く分布して多くの記録があるがこれらが総て本種のことであるのかどうか再調査の要がある。宮武博士の図説(1985)では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬が分布となっている。

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]。西宮市盤滝 (1ex., 10—VI—1987), 船坂 (7exs., 5—VI—1987, 4exs., 11—VI—1987)。神戸市藍那 (1ex., 8—VI—1969), 逢山峡 (4exs., 27—VI—1987)。加西市畑 (1ex., 21—VI—1975)。多可郡白山 (1ex., 27—V—1973)。加東郡社町三草 (1ex., 24—VI—1987)。龍野市神岡町 (1ex., 19—V—1988, 3exs., 26—V—1988)。宍粟郡福知溪谷 (1ex., 3—VI—1975, M. Yuma leg., 1ex., 20—VI—1976), 水谷 (1ex., 17—VII—1981), 音水 (2exs., 3—VI—1973, S. Hisamatsu det.), 赤西 (1ex., 23—VI—1979), 坂の谷 (1ex., 9—VI—1973, S. Hisamatsu det.)。氷上郡山南町 (1ex., 11—VII—1990)。美方郡扇ノ山 [辻, 岸田, 1972., 高橋, 1975]。

11. *Hymenorus veterator* Lewis, 1895

ムナビロクチキムシ

Lewis によって日光並びに神戸の摩耶山産3頭(8月)の標本によって記載された種である(1895)。

原記載以後の記録が無いように思はれるが中根博士の御教示によれば河野博士のコレクションに1頭同定されたものがあり, 中根博士の手許にも本種と思はれるものが1頭(色が淡い)あるとのこと。

原記載を読んだ限りでは余りはっきりした特長がわからなかった。*Allecula tanuis* ホソアカクチキに良く似ているように思はれる。いづれにしても県下での産は再調査をしなくてはいけないと考へている。

産地: Maiyasan near Kobe [Lewis, 1895]

12. *Isomira oculata* (Marseul, 1876)

フナガタクチキムシ

Marseul により日本産で *Cistela* 属で記載された種である(1876)。県下では余り記録がないが神戸市内でごく普通に産するので恐らく県下にも広く分布している種だと考へている。

産地: 神戸市烏原 (1ex., 24—V—1970, 1ex., 9—V—1974, 1ex., 16—VI—1980, 6exs., 17—VI—1980, 1ex., 25—VI—1980, 1ex., 25—VI—1980, 2exs., 6—VI—1982, 3exs., 8—VI—1982, 5exs., 9—VI—1982, 8exs., 13—V—1982, 3exs., 15—VI—1982, 8exs., 16—VI—1982, 1ex., 19—VI—1982, 1ex., 20—VI—1982, 2exs., 24—VI—1982, 1ex., 9—VII—1982, 1ex., 6—VI—1983, 3exs., 14—VI—1983, 2exs., 19—VI—1983p 1ex., 23—V—1983, 1ex., 14—VI—1984, 1ex., 16—VI—1984, 1ex., 30—VI—1984, 2exs., 15—VI—1985, 1ex., 11—VI—1990), 逢山峡 (6exs., 1—VII—1986, 3exs., 27—V—1987)。小野市山田 (5exs., 18—VI—1987)。加東郡社町三草 (5exs., 18—VI—1987)。加東郡社町三草 (5exs., 26—VI—1987)。氷上郡篠ヶ峯 [山本, 高橋, 1962]。

養父郡氷の山 [中根, 1953]。

13. *Mycetochara collina* (Lewis, 1895)

ヨツボシヒメクチキムシ

Lewis により "Kashiwagi" 産 *Mycetochara* 属で記載された種である (1895)。

中根博士 (1963), 宮武博士 (1985) による原色図説がある。

県下の記録は大変少ない。

産地: 宍粟郡坂の谷 (1ex., 23—VI—1979)。美方郡扇ノ山 [辻, 岸田, 1972]

14. *Mycetochara scutellaris* Lewis, 1895

ムネアカヒメクチキムシ

Lewis により "Konose" を産地に記録された種である (1895)。本種も中根博士 (1963), 宮武博士 (1985) による原色図説がある。

この種も県下での記録は次のものだけしか知られていない。

産地: 多可郡鳥羽 (1ex., 1—VI—1975)

15. *Pseudocistela haagi* (Harold, 1878)

クロホシクチキムシ

Harold により記載された種である (1878)。

次の記録を知るだけで残念ながら筆者は県下から該当種を得ていない。分布を調べなくてはならない種である。

産地: 美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1972]。

Subfamily Omaphlinae オモナガクチキムシ亜科

16. *Cteniopinus hypocrita* (Marseul, 1896)

キイロクチキムシ

Marseul により Nagasaki, Shanghai を産地に *Cteniopus* 属で記載された種である (1876)。

県下に広く分布している。どちらかと云えば山地帯に分布している種と云えよう。

産地: 神戸市二十番 (1ex., 26—V—1955), 山の街 (1ex., 4—VII—1954)。宍粟郡音水 (1ex., 16—VII—1972), 坂の谷 (1ex., 22—VII—1979), 水谷 (8exs., 17—VII—1981)。水上郡神楽, 佐治 [山本, 1958]。養父郡氷の山 (4exs., 27—VII—1956, 1ex., 21—VII—1958), 杉ヶ沢 [高橋, 1976]。美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1972]。

以上兵庫県産クチキムシ16種を記録したが初めに記したように日本産は現在30種と云うことであるから兵庫県産も今少々追加して産するものが見られるかもしれないし, 分布状況についてももう少し詳しく調べて見る必要があるものと考へられる。

参考文献

兵庫県産に関係ある文献は拙著“兵庫県産甲虫類に関する文献目録”を参照下さい。

Borchmann, F., 1910. W. Junk Coleop. Cat., Pars. 3. Alleculidae. 80p.

Lewis, G., 1895. On the Cistellidae and other Heteromeres Species of Japan.

Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 6, XV:250—278.

Maeda, M. & Nakane, T., 1988. New or Little-known Coleoptera from Japan and its adjacent Regions, XL. Family Alleculidae. Rev. Miyazaki Sangyo—Keiei Univ., 1(1):1—10.

Marseul, M., 1876. Coleopteres dn Japan recuillis par M. George Lewis.

Énumération des Hétéromeres.

Ann. Sor. Ent. France 1876:315—340.

三輪勇四郎, 1938. 日本甲虫分類学. 242 p. (ref. p.159) (西ヶ原刊行会)。

宮武陸夫, 1985. 原色日本甲虫図鑑Ⅲ (pl.59, p.346—348) (保育社)。

中根猛彦, 1963. 原色昆虫大図鑑, 第二卷 (甲虫篇) (北隆館)。

Nakane, T., 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions XIX. Frag. Coleop. Pars. 6/7:30.

Nakane, T., 1968. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions XXV II. Frag. Coleop. Pars. 21:84—85.

中根猛彦・伊賀正汎, 1955. 原色日本昆虫図鑑, 上. 甲虫篇 (保育社)。

Nomura, S., 1961. Two new Cteniopinus—Species from Japan and Formosa (Alleculidae). Entom. Rev. Japan 12(2):38—40.

Nomura, S., 1964. Some new species of the Coleoptera from Loochoo Is. and its adjacent regions II. Entom. Rev. Japan 17(2):47—57, pl.3.

野村 鎮, 1970. 日本産異節類甲虫の分布資料. 昆虫学評論 22(3):101—107.

佐々治寛之, 1987. 日本産クチキムシ類覚え書. 福井虫報 (1):40—43.

湯浅啓温・河野広道, 1950. 日本昆虫図鑑. (北隆館)。

(1991・II)

尼崎西南部の昆虫（その5）

新 家 勝

VII Coleoptera 鞘翅目

昆虫への関心が薄くなり、保管が面倒であった頃、プラスチック封入を図ったが、その際ラベルのデータをノートに記録していた。甲虫類については、現在保有している標本とこれらの記録を元に報告したい。なお、これらの記録によるものは、「R」を付して識別してある。

1 Cicindelidae ハンミョウ科

- (1) *Cicindela elisae* Motschulsky ヒメハンミョウ R

1947. 8. 5

アオウキクサやウキクサの上におり、小虫を捕食していた。昆虫界 Vol. IX No. 88 (1941) には、1940年頃、武庫川に多産したと記載されている。

2 Carabidae オサムシ科

- (2) *Apotomopterus yaconinius* Bates ヤコンオサムシ R

1944. 6. 20

3 Harpalidae ゴミムシ科

- (3) *Chlaenius micans* Fabricius オオアトボシゴミムシ R

1947. 5. 6

ゴミムシ類の記録は、僅か1種であるが、随分多種のものがいた。セアカヒラタゴミムシは普通におり、科は異なるがナガヒョウタンゴミムシやミイデラゴミムシが普通にいた。

4 Dytiscidae ゲンゴロウ科

- (1) *Cybister japonicus* Sharp ゲンゴロウ R

1947. 6. 1

- (2) *Cybister thermomectoides* Sharp クロゲンゴロウ R

1947. 5. 17

これらのほかコガタノゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、シマゲンゴロウなどが普通にいた。ゲンゴロウやガムシの幼虫は水田にもよくおり、トンボ採りの際、水田や用水路の中に入るのが怖かった。ガムシも普通にいた。

5 Scarabaeidae コガネムシ科

- (1) *Onthophugas ater* Waterhouse クロマルエンマコガネ
1946. 4. 14
- (2) *Onthophugas atripennis* Waterhouse コブマルエンマコガネ
1944. 8. 9 , 1947. 5. 25 2EA
肥壺の周囲の土中に多くいた。
- (3) *Onthophugas lenzii* Harold カドマルエンマコガネ
1950. 8. 30, 1941. 3. 27
クロマルエンマコガネ同様、時々電燈に飛んできた。
- (4) *Aphodius elegans* Allibert オオフトホシマグソコガネ
1949. 5. 28, 1949. 10. 2
貨物自動車普及していない当時、小口の輸送は馬力によっていたので、運送業者の厩舎があり、そこから5月と10月の2度、本種が飛び出した。小型で黒褐色のものもいたが種名はわからない。
- (5) *Maladera orientalis* Motschulaky ヒメビロウドコガネ
1947. 5. 15, 1946. 3. 29
- (6) *Maladera castanea* Arrow アカビロウドコガネ
1946. 7. 12
- (7) *Lachnosterna kiotoensis* Brenske クロコガネ
1945. 6. 15
- (8) *Lachnosterna morosa* Waterhouse オクロコガネ
1946. 6. 26 , 1949. 7. 1
- (9) *Granida albolineata* Motschulsky シロスジコガネ
1947. 7. 30
サルスベリの葉上にいたもので、約10年の在住中、採集・目撃ともこの1頭のみ。当時のこの地では珍品だったといえる。
- (10) *Melontha frater* Arrow オオコフキコガネ
1942. 7. 5
- (11) *Melontha japonica* Brumeistea コフキコガネ
1942. 6. 15
子供たちは、前種とともにカシノキブイと呼び、嫌われものでフンブイと呼ばれるドウガネブイブイと違って大切にしていた。アラガシに多く、ヤナギ、サクラ、エノキなどにもよ

いた。

- (12) *Popillia japonica* Newmann マメコガネ
1947. 6. 25
- (13) *Mimela splendens* Gyllenhal コガネムシ
1946. 6. 19 2EA
- (14) *Anomala testaceipes* Motschulsky スジコガネ
1943. 7. 19
- (15) *Anomala cuprea* Hope ドウガネブイブイ
1948. 7. 1
- (16) *Anomala viridana* Kolbe ヤマトアオドウガネ
1949. 6. 20 2EA
前種は餓産したのに対して本種は少なかった。生態はよく似ており、捕まえると、たちまち糞をたれ流す。アオドウガネは目撃、採集ともしていない。
- (17) *Anomala rutocuprea* Motschulsky ヒメコガネ
1949. 10. 9, 1950. 8. 20, 1950. 8. 27
- (18) *Anomala geniculata* Motschulsky ヒメサクラコガネ
1944. 6. 12
- (19) *Anomala multistriata* Motshulsky ハンノヒメコガネ
1946. 6. 6, 1946. 6. 13
- (20) *Anomala daimiana* Harold サクラコガネ
1944. 6. 12
- (21) *Blitopertha orientalis* Waterhouse セマグラコガネ
1949. 8. 15, 1949. 6. 19, 1947. 7. 12
- (22) *Protaetia orientalis* Gory et Percheon シロテンハナムグリ
1949. 7. 30, 1952. 8. 24, 1949. 8. 6, 1947. 8. 7, 1949. 7. 30
アキニレのほかヤナギやイチジクの樹液によく集ったが、スイカの食べ残しには特に多く集った。花には、ほとんど来なかった。
- (23) *Glycyphana fulvitemma* Motschulsky クロハナムグリ
1949. 5. 21
オオイボタの花に時々飛来した。
- (24) *Cetonia pilifera* Motschulsky ハナムグリ

1947. 5. 16, 1947. 6. 1

- (25) *Oxycetonia jucunda* Faldermann コアオハナムグリ

1949. 10. 21, 1949. 6. 10

センダン、オオイボタ、セイタカアワダチソウ、バラ、ネギの花に、前種同様よく集った。

- (26) *Trichius succinctus* Pallas ヒメトラハナムグリ

1944. 6. 19

オオイボタの花に飛来したもの。極めて少なかった。

6 Buprestidae タマムシ科

- (1) *Chrysochroa fulgidissima* Schönherr タマムシ R

1944. 6. 11, 1946. 8. 20, 1947. 8. 12, 1949. 8. 19

素盞鳴神社の周辺でよく見られた。ここのアキニレで発生していたと思われる。

- (2) *Chalcophora japonica* Gory ウバタマムシ R

1946. 8. 10

- (3) *Buprestis haemorrhoidalis* Herbst クロタマムシ R

1946. 6. 1

庭のクロマツに登ると、前種とともによく梢にいたが、前種の方が多かった。

- (4) *Anthaxia proteus* E. Saunders ヒメヒラタタマムシ R

1947. 6. 26

- (5) *Trachys subbicornis* Motschulsky ナミガタチビタマムシ R

1947. 6. 6

6 Elateridae コメツキムシ

- (1) *Agrypnus binodulus* Motschulsky サビキコリ R

素盞鳴神社のアキニレに多くいた。

- (2) *Melanotus legatus* Candéze クシコメツキ R

1947. 6. 27

- (3) *Elater sieboldi* Candéze オオナガコメツキ R

1946. 5. 16

7 Coccinellidae テントウムシ

- (1) *Rodolia limbata* Motschulsky ベニヘリテントウ

1947. 7. 6

記録にはないが、ニジュウヤホシテントウ、ヒメアカホシテントウ、テントウムシ、ナナ

シテントウ、ヒメカメノコテントウは普通にいた。

8 Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

- (1) *Gonocephalum coriaceum* Motschulsky コスナゴミムシダマシ

1948. 6. 25

庭の砂地に多数棲んでいた。

- (2) *Uloma marseuli* Nakane エグリゴミムシダマシ

1943. 7. 21

9 Alleculidae クチキムシ科

- (1) *Allecula fuliginosa* Maklin オオクチキムシ

1949. 6. 25

- (2) *Borboresthes acicularis* Marseul クリイロクチキムシ

1947. 7. 21

10 Oedemeridae カミキリモドキ科

- (1) *Xanthochroa hilleri* Harold キイロカミキリモドキ

1946. 6. 16

アオカミキリモドキも多くいた。

ヒメウラナミジャノメの遅い採集記録

森 和 夫

1990年は暑い夏であったが、晩秋以降も近年になく暖かい日が続いたため、町中では、落葉するはずの街路樹等も、いつまでも背々としているものがあつた。また、新聞紙上でも、植物の生育や昆虫の活動等、いろいろと話題になっていた。筆者は、後記のように遅い時期に、ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* BUTLER を採集したので報告する。

本種を採集した日の前後も、おだやかな日が続いていたため、自宅の庭でもウラギンシジミが飛び回り、ムラサキシジミが葉上で日光浴をしていた。午後2時頃、目前に黒い蝶が飛び出してきた。この季節だけに、一瞬、何か分らなかったが、足元のコンクリート上に翅を広げて止まったため、急い

で網を持ち出し、採集した。新鮮な♀であった。

本種は、原色日本蝶類図鑑（川副昭人・若林守男共著、1976年・保育社刊）P.270によれば、「暖地では通常年3回発生で、4月中旬～9月下旬に姿がみられる。10月に4化の現れることもある。」と記載されている。

また、原色日本蝶類生態図鑑Ⅳ（福田晴夫他共著、1984年・保育社刊）P.67～P.68では、各地の発生状況が記載されており、遅い採集例としては、長野県飯田市で11月9日、長崎県では11月7日となっている。従って、今回の採集は、11月25日であり、これらよりも遅い採集日であった。なお、本種の夏型は春型よりも、一回り小型であるが、採集した個体は夏型タイプの小型（開長34mm）であった。

〈採集データ〉

川西市見野字山形、25—XI—1990。 1♀ 筆者採集。

ニシキキンカメムシ神戸市内に産す？

大倉正文

昨年（1990年）12月の初め、神戸生物クラブ顧問の清水美重子氏から「神戸の灘区に住んでおられる方の家に入ってきたものだそうです。タマムシのような美しい虫ですが、何という名前でしょうか」というお手紙とともに1頭の昆虫が送られて来た。

早速包をあけてみると、甲虫の成虫とばかり思っていたのに幼虫で、それも私には門外のカメムシの幼虫であった。しかし、いかに門外漢でもこのように大きくて美しい幼虫はキンカメムシ類に違いないというくらいの見当はつく。

ところで、兵庫県下に分布するキンカメムシ類はオオキンカメムシ・アカスジキンカメムシ、それに高橋寿郎氏が本誌第18巻にくわしく書かれているニシキキンカメムシの3種類である。この中、オオキンカメムシは四国等の暖かい所で越冬する性質があり、渡りをする事で知られているので、幼虫が兵庫県に棲息するのは疑問がある。ニシキキンカメムシは高橋氏の報文を読むと、この近くでは1960年代に西宮市の尼子谷で見付かっているにすぎない。とすると、残るはアカスジキンカメムシであるので、アカスジキンカメムシの幼虫？ではなかろうかと思う旨のお返事を差上げておいた。

本年になり、高橋寿郎氏に現物を見ていただいたところ、アカスジキンカメムシの幼虫はもっつくすんだ色をしており、こんな美しい色の幼虫はニシキンカメムシに違いないとお話であった。

そのため、改めて清水氏にお電話をして、この幼虫を採集された楠田さん（ご婦人）の電話番号を調べていただき、直接お話を伺った結果は次のようであった。

採集された場所は東灘区岡本3丁目（甲南大学の東）で、マンションの4階の部屋へ1990年9月ころの夕方、窓から入りこんで来たのをつかまえたとのことであった。それにしても、よく4階まで這い上がったものである。

このあたりは閑静な住宅地で、すぐ近くまで六甲の山波が押し寄せており、近くを走る阪急電車の車窓から見ると、樹木もよく生い茂っている。何れにしても、9～10月ころ一度調査する必要があるものと考ええる。

この標本は金緑色にかがやく美しい個体であるが、惜しいことに触角・肢などは郵送途上にはほとんど破損してしまっている。

なお、この標本は現在、高橋氏が保管されている。

宝塚市清荒神のチョウ（追録7）

加藤 信一郎

オオチャバネセセリは市街地には稀なチョウである。筆者は1982年6月、自宅裏で1♂を採集しているが（加藤、1982。きべりはむし10(2)）、その後の採品につき報告する。

オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida* MURRAY

1♀、1-9-1988。自宅庭で採集。前翅長16mmと小型。前翅表後縁ならびに後翅表裏面の小白斑紋をほとんど欠く異常型である。

1♀、9-7-1991。自宅庭で採集。

なお、ナガサキアゲハは1981年5月当地で初見以来（加藤、1981。きべりはむし9(2)、年々その数を増した後減少に転じ、ここ数年は全く見なくなった。もっとも拙宅から東南500mの小浜の松原氏宅ではこの3/4年引続き春夏を通して、庭内のナツミカンに飛来し、産卵・羽化を繰返しているのが確認されている（朝日新聞、18-5-1990）。

ヒメタイコウチの死体を小野市^{きびた}黍田町にて拾う

高橋 寿郎

ヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esaki は兵庫県下では西宮市、三田市、明石市、小野市に記録があり小野市青野ヶ原が現在日本での分布の西限となっている（西、1988）。

1991年4月11日小野市^{うた}黍田町（加古川のそば）にあるレストランの前庭駐車場にて押しつぶされたヒメタイコウチの死体を拾った。頭部は無く、肢も全部揃っていないかった。帰宅して田中 稔氏に頂いた西宮市産のヒメタイコウチ標本と比べて間違い無いことがわかった。死体はヒメタイコウチについて詳しくまとめられた伴 幸成、柴田重昭、石川雅宏氏著“ヒメタイコウチ”（文一総合出版、1988）によって（p.64）♂であることがわかった。青野ヶ原より若干東にあたる地点であるから特にとどうと云うことはないと思はれるが恐らく小野市内の他の地域でも調べたら本種の生息が確認される所があるのではないだろうかと思はれる。

追記. 1991年6月16日夜三木市の小倉 滋氏から電話を頂いた。色々新しいニュース、記録を教えてくださいましたがその中でヒメタイコウチも三木市内数ヶ所で生息が確認されているがいずれも環境破壊が近づいており絶滅するのではないかと心配であるとのことであった。

三木市美囊川畔のヒゲコガネ

（ 兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 9 ）

高橋 寿郎

三木市の美囊川畔で6月末から8月始めにかけて日没と同時に多数のヒゲコガネ *Polyphylla* (*Gynexophylla*) *laticollis* Lewis, 1887（主として♂）が飛ぶ素晴らしい光景に就いて既に本誌上に発表させて頂いている（Vol.8, No.2, 1980）。早いものでその頃からすれば10数年経過しておりその後どの様な状況になっているのかわからないのでよくわからないまま現在にいたっている。最近永

幡嘉之氏から送って頂いた“釜城生物, No.5, 1991”によると数年前から末広橋での(従来筆者の調べたのもこの橋の両側であった)本種が稀少になって来ているとの記事が出ていた(p.12)。その後同氏の私信でも1986年頃から一晩に3~4頭にしか出会はなくなったとのことであった。

1991年5月9日蜂谷幸雄氏に無理を云って末広橋へつれて行って頂いた。

なる程橋の両側は河原がきれいに改修されていて芝を植えたようになっており土手も同じ様に改修され面目が一新されていた。さらに西側へも改修が及ぶのか土木機械がおいてあった。かつて河原には樹木などもあったのが跡形もなく無くなっていた(この樹にはハンノヒメコガネが多く来ていた)。この河原に生息していたと考えられるヒゲコガネはこの改修で恐らく潰滅的損害を受けたのであらうと考えられる。見た目にはきれいな川原になった様であるがこの河原を何に使用する考へているのか(東隣の福有橋の川原のように車の駐車場にするのであらうか)。とに角自然の川原ではなく人工の河原にさま変りしている。そこで生活していた虫達はその改修工場で絶滅を余儀なくされてしまった様に思はれる。まだ他の地点に生息している所が残っているだらうと思はれるが身近で多く生活している所はどうやらなくなってしまったようである。市街地を流れている様な川では自然を求めることは出来ないのであらうか。

追記。脱稿後三木市の小倉 滋氏からの御教示によると美囊川ぞいの他のヒゲコガネの産地でも川原の改修なんか全くされていないような所でもここ数年採集出来る数が極端に減少しているとのこと。何か川原の改修といった環境破壊以外にも減少する原因があるのかもと考へられたりする。

ヒラタアオコガネ広野ゴルフ場(三木市)に大発生

(兵庫県甲虫相資料・260)

高橋 寿郎

1991年4月22日の夜兵庫野鳥の会事務局長坂根 干氏より電話を頂いた。“本日広野ゴルフ場で物凄い数のコガネムシが群飛していた。捕虫網を持って行ったら何百匹と簡単にとれそうだったと。マメコガネよりやや小さいコガネムシと思はれるが何んと云うコガネムシだらうか”とのことであった。実物を見なくてはと何んとも云えないが出現期からして早春に見られるウスチャコガネだらうと考へ

られるがと返事したが何頭か生きたまま持って帰っているので明日郵便で送るとのことであった。

送られて来たのを拝見すると意外にもヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister, 1844 であった（送られて来たのは5♂4♀で内1♂はまだ元気に動いていた）。早速そのむね連絡しておいたがこのコガネムシはどうも日本特産種の様で一番新しい石田正明・藤岡昌介氏著の“日本産コガネムシ主科目録”（1989）によると本州（中部以南）、四国、九州、平戸島、壱岐、甕島、種子島、沖縄島に分布が知られているが日本以外の海外では分布していないようである（別稿でこの種の分布に就いて眺めて見たいと考えている）。

小さなコガネムシであるが見ようによっては緑色の仲々美しく可憐である。上翅上に縦の4隆起線を有することが種名につけられていてその生活史等はどうも見当らなかった。“広葉樹の葉上に見られる。幼虫は土中で根を食べて育つ（林, 1975）”“成虫は春に出現, 晝間活動し, 主に植物の葉を食べる。雄は時に地表近くを群飛することがある。幼虫は土の中で植物の根を食べて成長する。春に発生することや雄が地表近くを群飛して雌の出現を待つことなどウスチヤコガネの習性によく似ている（黒沢, 渡辺, 1984）”等の解説がある。

出現期の関係もあつたり小さかったりすることから野外では余り採集出来なかった種のように思われるがゴルフ場が出来だしてからあちらこちらのゴルフ場では採集出来るようで六甲山上の六甲山ゴルフ場でも5月10日前後群飛するのに何回か出会った（きべりはむし, Vol. 14, No. 2, 1986）。兵庫県下では他にも西宮市武田尾説売ゴルフ場, 宝塚市長尾山, 宝塚高原ゴルフ場で採集されている（きべりはむし, Vol. 15, No. 2, 1987）。いわゆるゴルフ場の芝草の加害コガネムシの様でありゴルフ場があれば多い少いはあるが見ることが出来るコガネムシのようである。

ところで一般の方がゴルフ場で驚く程の数のコガネムシが飛び交ふのに出会われると当然不快の念を起される。そこでゴルフ場側は薬剤の散布を行はれることになる。

この場合飛んでいるのはほとんど雄でありこの時期に薬剤散布と云うことは防除の効果から云えば余り効果が無いと考えられる。成虫の発生の初期から残効性の強い農薬を散布するとか、殺虫剤の散布回数を増加する方法をとってこの虫の雌を対象としての防除を行うと同時にこの虫の幼虫防除を行はなければいけないとか。若令幼虫を対象に5月中旬～6月中旬頃乳剤による散布をやると云うことを実施しなくてはいけないと云ったことになる。そうなると虫を抑圧することは同時に人間に対する影響が色々出てくることになる。

ゴルフ場建設でその地の自然は破壊され今迄生息していたもの達は絶滅に追いやられる。ところが芝生が出来るとこの芝生にはまた違った虫達が発生するそうになると人間は薬剤でもって対抗する、こんどは薬剤による環境悪化人間への影響が出てくる。虫だけを殺して人間に何の影響もないと云った虫のイイ薬剤なんてないことを承知しなくてはいけないと思はれる。

わざわざ大発生を御知らせ下さった坂根氏に厚く御礼申しあげる。

(追記) 1991年5月9日加古川市上荘町白沢の田圃のそばで雑草にとまっている本種2頭を発見その内の1♂を採集した。このあたりの本種の記録は始めてである。すぐそばではないがゴルフ場が近い地点でもある。

ヒラタアオコガネの生活史、卵、幼虫の形態については後閑暢夫博士の貴重な報文がある(それによると本種は本州では稀な種とも書いておられる—日本応用動物昆虫学会誌第24巻、第2号、PP.112—114, 1980)。

県関係文献紹介

○宝塚市立少年自然の家編集・発行(1991・Ⅲ)

自然観察資料 ギフチョウの一生。17P.

ギフチョウの産卵からふ化そして羽化するまでカラー写真35枚と発育過程の説明文もついている。写真は自然の家職員今北 清氏が3年前から写していたものであるとか、残念ながら現在のカラーとしては今一つの物足りない印刷になっている。

○宝塚の自然 第5号(1991・Ⅲ)

兵庫県自然保護協会宝塚支部・宝塚自然に親しむ会会報

仲々清楚な会誌である。ただ虫の記事が多いので虫^〇ヤにはうれしいが一般の会員にはどんなものであろうか。投稿者と云うのか原稿をバランスよく集めるのは大変であらう。貴重な記録も発表されたりしているので文献として一般にも知って頂きたい会報と云える。

○佐用ライオンズクラブ 千種川の生態 第18集。18P。(1991・Ⅳ)

平成2年度の千種川の水生生物調査のまとめである。息の長い調査色々と教えられる所がある。今後も継続調査されるようである。頑張ってもらいたい。

○釜城生物 No. 2, 3(1990・Ⅷ), No. 4, 5(1991・Ⅱ) 兵庫県立三木高等学校生物部刊。

永幡嘉之氏が三木高等学校在学中に1人で出版を続けてこられたもので永幡氏が大学へ進学(鳥取大学)されたのでこの会誌もNo. 5で休刊となるのは淋しい。今回の会誌の中には三木市内の河川の水生生物による水質調査結果のような仲々有益なレポートが発表になっていたりする。

○北部の自然。西宮の自然ガイド④

—西宮の北部で見られる生き物たち—(西宮市立総合教育センター編集出版。1991・Ⅲ)

美しいカラー写真が多く入って(93p.)楽しく読める。執筆は西宮市の学校の先生方が大部分である。昆虫も蝶を中心にキベリハムシとかオサムシなどの解説が入っている。

このシリーズ①②は「甲山の自然1, 2」(1989). ③「海辺の自然」(1989).

また西宮自然保護協会編集“歩いてみよう西宮、夙川、甲山、1988”“続・歩いてみよう西宮、武庫川から海へ、1991”も出版されている。

○伊丹の自然 第9号(伊丹市立博物館1991年3月刊. 48p.)

本会会員新家 勝氏から上記文献の御恵送を頂いた。

本号には新家 勝氏の力作“武庫川のトンボ”(p.32—48)が発表されている。

○自然とともに 第14号(1991.VI). 第15号(1991.VII).

兵庫県保健環境部環境局環境管理課発行

第14号より活版印刷になりました。虫関連の記事はほとんど出ておりません。

県関係 会誌・機関誌・連絡誌

(1 9 9 1 ・ IV — 1 9 9 1 ・ IX)

兵庫生物 Vol.10, No. 2 (1991・IV) (兵庫県生物学会)

兵庫生物ニュース No. 1—4 (1991・III—1991・IX) (兵庫県生物学会)

兵庫陸水生物 No.38 (1991・IV) (兵庫陸水生物研究会)

混蟲ずかん No.29 (1991・V) No.30 (1991・IX) (但馬むしの会連絡誌)

のせ Vol.20, No. 2~7 (1991・II~VII) (大阪昆虫同好会連絡誌)

PARNASSIUS No.37 (VII・1991) (淡路昆虫研究会)

交換誌

(V ・ 1991 — IX ・ 1991)

(いづれも本部に保管しております)

神奈川自然誌資料12 (神奈川県立博物館, Mar. 1991)

富山市科学文化センター研究報告 第14号 (1991)

富山市浜黒崎海岸自然調査報告書 (1991) (富山市科学文化センター)

すかしば (山陰むしの会) No. 34 (1990) No. 35 (1991)

〈訂正〉

Vol. 19, No. 1, p. 32の永幡嘉之氏の住所・鳥取市湖北町北4丁目は鳥取市湖山町北4丁目に訂正下さい。

会費納入についてお願い

1992年度会費 3,000円

毎年1号分の印刷代が赤字になると云った運営で累積赤字もそこそこになって来ました。印刷代も値上りされています。不本意ですが来年度から500円の値上をお願い致し度く宜敷しくお願い致します。

編集後記

- 本年は冷夏だったと云われますが結構暑い日もありましたし、8月末から9月始めの残暑も相当なものでした。お褒り御座いませんか。
- 本年は雲仙岳（長崎県）、ピナトウボ山（比国）の噴火とかスラウエシ島（インドネシア）の地震、お隣中国の大洪水とか自然の恐しさを知らされました。被災者の方々は大変だと思います。
- 年々荒廃して行く身辺、この先どうなりますやら自然界のみならず政界、財界、経済界あらゆる所が“お金”に振り廻されている感じがです。貧乏人の僻みかもしれませんが“お金が総てだ”と云う世の中は淋しい限りです。
- やっと本誌も発刊出来ました。青息吐息です。頑張っているつもりです宜敷く。

(T)

きべりはむし 第19巻第2号

1991年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区水室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：い文尚堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11
